

RAさんへのインタビュー (no. 080)

- ◆インタビュー内容
- ①自己分析はどのようにしましたか。
 - ②業界、企業、職種選びはどのように行いましたか。
 - ③就活を通して、これが大変だったということがあれば教えてください。

RAさん

◆プロフィール

- ・社会学部社会学科4回生
- ・23歳男性
- ・私が2回生のときとっていた演習Iの授業で、同じ班だったことから知り合った
- ・三井住友系の金融会社に内定
- ・大学時代は陸上部に所属

①

自己分析はぼちぼちやった。でも自己分析本やネットでの自己分析チェックみたいなのはやらなかった。自分は大学で部活をやっていたし、役員でもあった経験もあって普段から自分のポジションとか得意不得意がわかっていたし、先輩や部活仲間からも「お前は〇〇なやつだよな」という感じで客観的に言ってもらえる機会がたくさんあったから、就活直前になって自己分析を始めた訳じゃなくて、その前から自分についてはわかっていた。

また、自分の出身地、大学も自己分析のひとつ。同志社出身というカードは就活において、企業にも寄るが自分の重要なカードになる。たとえば、金融系なら三井住友は同志社出身者が多いから有利であるとか。これは就活において絶対に有利になる点だから私はこれを有効に使って就活を進めた。だから私は志望する企業を選ぶのに出身者が多い、つまり同志社ネームがよりきく企業を選んで受けた。

②

業界は自己分析から自分はみんなを引っ張っていくのが得意だったし、世界を動かす経済というものについて興味があったので、金融系を考えていた。また他にもメーカーや広告代理店も考えていたのだが、面接などを受けていてこれはやっぱり自分に合わないなど感じるようになっていった。

企業によって全くカラーが違う。自分にあう企業を選んだ。というか自分に合わない企業は落ちた。やはり自分に合う企業がいい知らせが来る。またさつき自己分析のところ

でも言ったが、同志社出身のOBOGがたくさんいるところは強い。

また、就活を通して、人の縁というものが重要だと感じた。良い知らせをもらった企業というのはたいていその企業の人と知り合いになっているいろいろ情報(説明会や面接日程やその他相談アドバイスなど)を教えてもらった。その人事の人に「困ったことがあったら〇〇さんの知り合いですって言うてみる」と口利きをしてくれるようなことを言うてくれたり、「うちに入ったら俺の下で働け」と言うてくれる人もいた。

③

自分は就活は楽しめた。面接会場に行っているいろんな人に出て、喋るのが楽しかった。一番大変だったといえば、東京の方に面接にも行っていたので、交通費の捻出。

◆インタビューを通しての考察

今回インタビューしたRAさんは実は就活2回目ということもあり、就活の容量も分かっていたようだ。1回目の就活は絵の勉強がまだしたいからということで蹴ったらしいが、彼は2回就活をしたことを全く後悔していないようだったし、就活にそこまで影響を与えていないようだった。

彼の話の聞いていると就活は楽しめたと言っていた。何人かの先輩にちらっと話を聞くと大抵就活はしんどい、大変と聞いていたので少し驚いた。なんでかなと思って話を聞くと、彼の性格である色々な人としゃべるのが好きというものもあるが、割り切ることと自分への自信であると感じた。何度か面接に落ちたこともあるが、この会社は向いてなかったんだと割り切り、自分に向いている雇ってくれる会社は必ずあると考え、厳しい面接のときもポジティブに返したら逆に面接官の人は笑っていたという。

また、彼の話の聞いている印象に残ったのは「縁」という言葉だ。自分の力ではなく、目に見えないなにかしらの力である、「縁」を就活でよく感じたと言っていた。そう言った後でどこでどのように繋がるか分からない縁を大事にすることが大切だとRAさんにインタビューしてみて思った。

RBさんへのインタビュー（no. 081）

《就活についてのインタビュー》

- ◆インタビュー内容
- ①自己分析はどのようにしましたか。
 - ②業界、企業、職種選びはどのように行いましたか。
 - ③就活を通して、これが大変だったということがあれば教えてください。

RBさん

◆プロフィール

- ・文学部文化史学科4回生
- ・21歳女性
- ・同じ合唱サークルの先輩
- ・製パンメーカーに内定
- ・サークルでは渉外という役職をやってらした

①

自己分析は少ししかやらなかった。主にやったのは、中学時代から今までの自分史年表を書き出してみても自分を振り返り、友達に客観的に自分を見た意見をもらったりした。自己分析本はあまり使わなかった。

自分のことをあまりわかっていなかったので自己分析をした。始めたのは1月頃から。私は遅いほうだと思う。なので、実質4か月の間で自分のこれからの人生で大きなものを占める仕事を決めた。早くに就活を始めれば良いというものでもないが、もう少し早めに自己分析と企業の情報収集はしておくべきだと思った。

②

はじめから「人の生活を支える仕事に就きたい」という気持ちがあったので、衣食住のどれかに関わる仕事に就きたいと考えていた。衣には自分はこだわりがあまりなかったので、やっぱり食品かなと思っていた。

また、サークルのOBの先輩(50歳くらい)と話していた時に、そのOBさんは繊維関係のメーカーに勤めていらっしゃるのだが、「自分の仕事は何かを生み出せる仕事」といってらっしゃったのが印象に残り、自分も何かを生み出せるような仕事に就きたいと思

い、食品メーカーを希望するようになった。メーカーはそこまで学歴を重視しない傾向があるらしい。

B to B(企業から企業への流通)か B to C(企業からお客様への流通)の選択があるらしいが、それはこだわらなかった。

はじめは大企業を考えていたが、あとになると自分の力が発揮しやすい中小企業のほうが自分には合っているかなと思うようになった。

はじめから一般職は考えていなくて、責任がある総合職を希望していた。

③

とっさに言われたことに対して相手の聞きたいことを理解し、うまく答えるのが苦手なので、それが一番困った。また、自分の強み、アピールポイントをうまく口で喋るのが苦手なので苦労した。

面接のときなどサークルで渉外(この先輩の場合、OB・OGさん対応の役職)をやっていたことを軸にしてアピールしたが、グループディスカッションのとき同じようなことをしていた人は何人かいたので、特別にポイントにはならなかったと思う。

しかし、就活全体においては、思っていたほどつらくはなかった。落ちた企業も何社かあったがそこまでは落ち込まなかった。私は就活を始めるのが遅かったのではじめ説明会に行った時など焦ったが、なんとかなった。食品関係ばかり探していたので、内定が取れてからは他の業界も探していたがやはり食品関係にしようと思う。6月中には就活を終わる予定。

◆インタビューを通しての考察

RBさんはサークルでも渉外という役職をやっていたので就活を本格的に始めたのは1月に入ってからになった。しかし、先輩の切り替えの早さや誠実さ、人当たりの良さなどもあって無事競争率の高い食品メーカーの内定をもらえたのだと思う。

この先輩は業界を選ぶにあたって、自分の適性とかではなく、自分の興味やOBさんとの会話がきっかけで選んだようだ。

また、RBさんは女性ということもあって、結婚した後も働ける会社をといるのを考えたらしい。

◆インタビューの反省

今回はこちらから質問をして話題を引き出していくことができなかったが今回はそこは少し改善されたように思う。しかし、自己分析をどのようにいかしていったか、どうしてその企業に決めたのかなどつっこめなかったので、次回は注意したい。

RCさんへのインタビュー (no. 082)

- ◆インタビュー内容
- ①自己分析はどのようにしましたか。
 - ②業界、企業、職種選びはどのように行いましたか。
 - ③就活を通して、これが大変だったということがあれば教えてください。

RCさん

◆プロフィール

- ・法学部政治学科4回生
- ・21歳女性
- ・サークルの先輩
- ・サークルでは渉外という役職をしておられた
- ・りそな銀行に内定

自己分析は11月ごろから始めた。PCでするエピソードメーカー(H21.5.31終了)を使った。これは自分の経験談を「どんな状況で」「どんな問題が起きて」「どんな行動をとって」「結果はどうなったのか」という4つの段階で書き込むだけで1つのエピソードが出来るというもの。

はじめは、面接やエントリーシートで、大学時代にしたこと(サークルなど)を中心にしていて、上手いかわなくて4月ごろにどうしたらいいか考え、就活本などを見直したりした末、自分はどんな人間かということが説明できていないと気づいた。そのことに注意してからはいい知らせが来るようになった。

①

銀行を選んだのは正直にいうと条件がいいから。福利厚生がしっかりしているし、女性が働きやすい、安定しているので長く続けられる、自分の性格にあっているかなと思ったから。

数ある銀行のなかでもりそな銀行を選んだのは、はじめ日経ウーマンという雑誌を見て『女性が働きやすい職場ランキング』で上位で評価が高かったのが興味をもった。その後、セミナーを聞きに行くと雰囲気も良かった。あと、事務と営業が比較的平等であったから。私的な理由では合唱団があったことも。

職種は、自分の性格を考えた上で事務職を希望していた。

②

気分の浮き沈みに波があったことが大変だった。特に、面接結果の連絡が来る前後。
また、自己分析を最初失敗したこと。（『自分はどんな人間か』ということあまり重視していなかった）

面接官の人が聞きたいことを読み取ることが難しかった。→機転がきく方ではないので、就活の面接本などを参考にして、聞かれる質問と返答のパターンをたくさん作っておいて対策した。

③

その他アドバイス

面接が終わった後、質問事項をメモしておいて次の面接では答えられるように準備しておいたらいい。

銀行の支店見学に行ったのだが、接客の雰囲気などがよくわかってよかったので、直接お店を見に行き雰囲気を見てみたらいいと思う。

◆インタビューを通しての考察

この先輩にインタビューしてみて、自己分析をしたとしてもそれをどう活かしてエントリーシートや面接につなげるかは重要だと思った。せっかく自己分析は出来ていても面接官の人にうまくアピールしなければならない。前もって就活を体験した人や OB・OG さんに見てもらうことも必要だと思った。

業種選択については、福利厚生や安定の面から選んだようだ。今まではインタビューした2人は、興味があるから、自分に合っているからという理由だったので人によって比重の置き方は様々なんだなと思った。しかし、その場合、実際に面接で「御社を希望した動機」を聞かれたときにはどう答えられたのだろうか。福利厚生は動機として認められるのか、疑問に思ったのでまた先輩に聞いておきたいと思う。

先輩のおっしゃっていたように、Web で見た限りだが、りそな銀行は働く女性の支援を活発に行っているようで、社員の6割が女性であるらしい。

大変だったことで、面接官の人の聞きたいことを読み取るのが難しかったというのは RB さんも言っていたことだったので、まだ3人にしかインタビューしていないのでなんとも言えないが、多くの人が苦勞するポイントなのかなと思った。

RDさんへのインタビュー (no. 083)

- ◆インタビュー内容
- ①自己分析はどのようにしましたか。
 - ②業界、企業、職種選びはどのように行いましたか。
 - ③就活を通して、これが大変だったということがあれば教えてください。

RDさん

◆プロフィール

- ・文学部国文学科3回生
- ・22歳男性
- ・サークルの先輩
- ・京進(塾)に内定

①

自己分析は特にはしなかった。普段から日記をつけていたのである程度は自分がどんな人間かがわかっていたから。

でも自己分析をしておけばよかったと後になって思った。自己分析はエントリーシートや面接での戦略を立てるのに役立つし、これからの人生にプラスになる。

②

業界は特に選ばなかったが、自分の軸として「人の感動とか成長を直接見れる仕事に就きたい」という思いがあったので、最初はそれに即して面接を受けていた。

しかし、塾以外の業界(食品メーカーやアミューズメント系)も数社受けた。企業選びのポイントは勤務地、転勤の有無。京都に住み続けたかったし、家族ができたときに転勤したくなかったから。でも地銀は性に合わないと思ってやめた。家族をもったとき普通に生活できる程度の収入があればよかったので、年収はあまり気にしなかった。

職種は選んでいない。試験で講師と管理職が分けられるらしい。

③

自分は人と関わるのが好きだし就活はそこまでつらくはなかったけれど、あえて挙げるとしたら、スケジュール管理。Webテストが何個か被ったり、ストレスも溜まるので息

抜きの時間を作ったり、バイトやサークルもしていたのでそのスケジュール管理が大変だった。

あと、内定が3月末に一つでてからのモチベーション維持。

◆インタビューを通しての考察

この先輩の就活は、自分が学生時代に働いていた会社(塾)に就職されたので少し特殊なケースで、働いていた時点でもうほとんど内定がもらえているようなものだったらしく、就活になったからといって自己分析をしなかった。メーカーなどほかの企業も受けたが、普通の就活のように何個もいろいろな企業の面接は受けなかったようだ。

この先輩の特徴として、将来の人生設計を考えて企業を選んだことがいえる。自分がどんな家庭を作りたいかななどを重要視した結果、収入にはあまりこだわらず、勤務地にこだわったようだ。

REさんへのインタビュー (no. 084)

- ◆インタビュー内容
- ①自己分析はどのようにしましたか。
 - ②業界、企業、職種選びはどのように行いましたか。
 - ③就活を通して、これが大変だったということがあれば教えてください。

REさん

◆プロフィール

- ・商学部4回生
- ・22歳女性
- ・大阪在住
- ・サークルの先輩
- ・イオンクレジットに内定

①

自己分析を始めたのは11~12月。リクナビの自己分析システムを使ったり、友達に他己分析してもらったりした。

②

まず、どの業界にどんな企業があるか、企業規模、企業利益がどれくらいかがわからなかったなので、日経から出ている業界地図をみて勉強した。

業界選びは、興味があったので流通小売業界を希望していた。

企業選びのポイントとしてはずっと働けるかということを軸にして①仕事内容②福利厚生で選んだ。

今の内定先にした理由は、はじめは販売からだが、商品企画ができるから。

職種は自分が興味をもっている商品企画を希望していた。しかし、流通小売業界はほとんどまずは販売から入るらしい。

勤務地は最初は関西がよかったが、絞ってはいない内定がもらえないと思ったので勤務地にはこだわらなかった。

③

内定が出るのが遅かったこと。6/30に内定がでた。

今年は企業側の採用姿勢が「数より質」で、始めから採用予定者数を出さないで、いい人がいれば採るという企業もあったようだ。

また、いいところまで行って落ちたりした後の切り換えが必要。人に会ったり、友達に話を聞いてもらったり、運動したりして気持ちを切り替えていた。

◆インタビューを通しての考察

流通小売業は大体はじめは販売から入ることを知った。また、今年は企業側が「量より質」で採用を行っているようなので、例え不況であっても良い人材がいれば採用はすることがわかった。

REさんの話では、学歴（出身大学）で分ける企業もあるようだ。

また、キャリアセンターでエントリーシートの添削をしているので利用してみるといいとアドバイスしてくれた。

R Fさんへのインタビュー (no. 085)

- ◆インタビュー内容
- ①自己分析はどのようにしましたか。
 - ②業界、企業、職種選びはどのように行いましたか。
 - ③就活を通して、これが大変だったということがあれば教えてください。

R Fさん

◆プロフィール

- ・経済学部4回生
- ・21歳男性
- ・大阪在住
- ・サークルの先輩
- ・商工中金（商工組合中央金庫法にもとづき1936年に設立された、中小企業を対象とする政府関係金融機関のこと）に内定

①

自己分析はした。就活本を使ったり、友達に分析してもらったり、過去の行動を思い出したり。

②

まず合同企業説明会に参加して情報収集した。

はじめから業界は絞らず、いろいろ見ようと思っていた。しかし、就活を進めていくうちに、いろいろな業界と関われ、企業を発展させる手助けができるので金融業界に惹かれていった。また、自己分析で自分は人の話をきくのが好きということから、融資のときなど金融の仕事が向いているかなと思った。

企業選びは、仕事の内容から選んだ。はじめメガバンク（日本では、3大メガバンク体制で、三菱東京UFJ、みずほ、三井住友から成っている）にしようかと思ったが、自分がやりたいことができないと思い、やめた。

職種は上に書いている理由で営業を希望していた。

今の内定先にした理由は、2年目から営業ができるから。

収入はある程度あればいい。勤務地はこだわらなかった。

③

このまま就職していいのか？と悩んだこと。就職したいわけでもなく、ただ皆、同じように就職活動をすることに疑問を感じ、留年しようかとも思った。しかし、ある時、紙に考えていたことを全部書き出して、次の日冷静にその紙を見ると、大したことではないと思い直した。

就活自体はいろいろな人と関われるので楽しかった。

◆インタビューを通しての考察

この先輩は自己分析を上手く利用して業界や職種を選んでいったように思う。選ぶポイントとしては一番仕事内容を重視したようだ。

また、この先輩は4月の初めには内定が決まっていた。サークルでは指揮者をしていたこともあって、人前で話すことに慣れていることが大きいのかなと思ったが、先輩いわく指揮者をしていて役立ったのは地声が大きいことかなとおっしゃっていた。

RGさんへのインタビュー (no. 086)

- ◆インタビュー内容
- ①自己分析はどのようにしましたか。
 - ②業界、企業、職種選びはどのように行いましたか。
 - ③就活を通して、これが大変だったということがあれば教えてください。

RGさん

◆プロフィール

- ・文化情報学部 4 回生
- ・22 歳女性
- ・広島出身
- ・サークルの先輩
- ・現在、就活中

①

自己分析は本を使ってやった。また、自分は本を読むことやテレビが好きだったので、書籍やメディア関係の仕事にも興味があった。

②

業界は興味のある分野（書籍やメディア関係）を中心に選んだが、そこまで分野は限定しなかった。メーカーや金融も受けていた。

年収については、あまり気にせず、一番重視したのは企業の雰囲気や自分の気質にあっているかどうか。

職種は特に選んでいない。

しかし、自分は企業に向いていないと就活を通して感じたため（他の人と比べてその企業への熱意の違い、間の悪さなど）、公務員試験に向けての勉強を最近始めたようだ。

③

その企業で働くことについての自分のモチベーションが上がらなかったということ。集団面接で自分は他の人に比べてその企業で働きたいという熱意が低いなど感じた。どれだけ面接を受けようと真面目に働くというだけでなく、やはりその企業に入りたいという熱意がより面接官に伝わらないと内定はもらえない。本当に熱意がないと志望動機を語るときにも嘘がばれてしまう。そういった意味でも、自分は一般企業に向いていないと思い、公務員を目指して勉強することを決意した。

◆インタビューを通しての考察

この先輩はとても真面目な人柄で、人と少し違った面白い視点を持っている人なのだが、その先輩でもその企業で働きたいという熱意が低く、真面目に働きますというだけでは今の時代、内定はなかなかもらえないのだと感じた。そこで、一般企業だけにこだわらず、自分の適性を判断し、公務員試験に切り替えて勉強を頑張り始めたように、自己分析だけではわからない就活を通してわかることもあるのだと思った。

RHさんへのインタビュー（no. 087）

- ◆インタビュー内容
- ①自己分析はどのようにしましたか。
 - ②業界、企業、職種選びはどのように行いましたか。
 - ③就活を通して、これが大変だったということがあれば教えてください。

RHさん

◆プロフィール

- ・高卒
- ・23歳男性
- ・京都在住
- ・バイト先のパン屋の店長

①

自己分析は特にしなかったが、何かを生み出す職業に魅力を感じていた。

②

業界選びは製造業に興味があったので、その業界で探した。その中でもパン屋に興味があり、希望していたが、父親には儲からないからと止められた。

企業選びは、今の就職先に決めた理由は、高校のときに学校から職業体験で行ったパン屋の店長さんに憧れ、その店長さんが今の就職先のパン屋で働いていたということもあり、他のパン屋も受けたがそこともう一つが内定が出ていて迷ったがここにした。収入は特に気にしなかった。

③

就職してみて大変だと感じたこと。

まず、製造業、特にパン屋は労働時間が長い。朝4～19時まで勤務で、早く帰れる日もあるが、休憩は基本30分、休日は月6回なのでかなりハード。また、店長になってからは責任が多くなるし、みんなからの信頼も得ないといけない。でも一番重要なのは人間関係。人間関係がうまくいかないと働いていて一番つらい。

◆インタビューを通しての考察

これまで総合職の人に話ばかりを聞いていたが、今回一般職の人に話を聞いてみて思ったことは、一般職は収入や責任が低いが、アフター5があつて楽だと思っていたのですが、全然イメージと違うと思いました。企業や業界によって違うのかもしれないです

が・・・。

また、職場の人間関係は重要なのだなと思った。就活ではなかなか外からは分からないし、どの職場に行くかもわからないが、その企業の雰囲気や社風や人間関係にも選ぶ基準に入れた方がいいなと思った。OB・OG 訪問ができるのなら積極的にアポしてみようと思う。